



北海道共同募金会の 使途不明金事件に思う

北海道共同募金委員会の事務局長による1.8億円にも上ると言われる着服疑惑事件が報道され大変ショックを受けました。

当該事務局長は、以前からその有能さで知られており、あらゆる分野に人脈を持ち、東北のある募金会からは募金委員会を対象とした研修会に講師依頼されることも度々でした。

共同募金資材として皆様に斡旋している「初音ミク」や「プリキュア」のクリアファイルも彼が手がけたものです。

今回得た教訓は、単純に「通帳と印鑑」を同じ人が管理してはダメという基本の1点だと思っています。当募金会の会計は、通帳は佐々木が、印鑑は私が管理しておりますが、私は通帳を触ったこともありません。どんな人でも「魔が差してしまう」可能性はあり、その可能性を潰すのが基本の基本でありましょう。

昨年12月に本県で開かれた「東北・北海道ブロック事務局長会議」に彼も来ており、会議では、以前書いた戸別募金が難くなる帯広市の実情を嘆いていたものです。

懇談会では酒も酌み交わしており、「あの時も深い闇を抱えたままで山形に来ていたんだな」と思うとやりきれない思いがします。「80周年は何か面白いことをしたい」とか、「言わば自分は(硬)だが、常務理事は(軟)を担っているので組織としてはうまく回っているんだ」という言葉が耳に残っています。

一昨年、大谷 翔平 選手の通訳を務めていた水原 一平が、大谷選手のお金20数億円を使い込んでいたという事件がありましたが、今回の事件はこれと比べても質が悪い。なぜなら手を出したがお預かりした「善意の募金」だからです。

事件の詳細は明らかになっていませんが、今回北海道共同募金会のみならず「赤い羽根共同募金」そのものが傷つき信頼も損なわれました。ただでさえ「共同募金は何に使われているのか怪しい」と主張する層が一定程度いる中で、住民の視線も益々厳しくなることが想定されます。危機感を持って事に望む必要があります。

私たち共同募金に携わる者は改めて襟を正していくことは当然ですが、信頼回復に向けては、派手なキャンペーンを実施する訳にもいかず、赤い羽根共同募金の必要性を地道に実直に訴えていくしかありません。そのためには、いつも書いている「ありがとうメッセージ」の徹底と「募金は何に使われているのか」という情報発信を愚直に続けるしかないと思っています。

市町村募金委員会の皆様も、事業実施においては、赤い羽根共同募金の助成に関して今後とも情報発信にご協力くださるようお願い申し上げます。

(事務局長 菅原)

